

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価の調査項目です)

取り組んでいきたい項目

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ゆったり、ありのままに、暮らして頂くをモットーに職員全員が理念を頭に入れ、日々業務に就いている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各フロアに理念と社是を掲示し、念頭に置きながらケアの実践に取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	半年に一度広報(ほほえみ便り)を作成し、理念や行事、入居者の生活の様子を掲載し、地域に配布することで理解を得よう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地元の祭りやイベントには、行ける時には参加している。出勤時に近隣の方々とすれ違う時はこちらから積極的に挨拶をしている。また、玄関周りには季節の花や手作りの作品を飾るなど、親しみやすく入りやすい雰囲気づくりをしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の祭りやイベントに参加して地域の方と交流を図っている。デイサービスで地域の方々による慰問などがある時は、入居者とともに参加している。また防災協会に入ることで、地域の一員として町内の方々とは交流し、親睦を深めることができるよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	台風などの災害時、地域で独居生活のため不安を感じておられる方は、本人との相談のうえ、一時的に宿泊していただき食事などを提供している。また、地元中学校の職場体験や見学なども受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ会議を利用し、外部評価を実施することの意義を全職員で共有している。指摘項目はスタッフ会議で検討し、改善に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度運営推進会議を開いており、事例やヒヤリ・ハット、ホーム内行事等について報告している。入居者のご家族も委員として参加されており、ケアの現状に対する意見などを伺っている。また、医師や包括支援センターのケアマネジャーからは、それぞれの立場から専門的な助言を頂き、スタッフ会議を通してケアの向上に努めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	不明な点や困ったこと等が生じた場合は電話で相談したり直接出向くなどして問題解決に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加し、スタッフ会議で報告している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料で学ぶとともに、スタッフ会議でどういうベッド柵の使用法や声かけが虐待になるのかを具体的に話し合いながら、それぞれが日頃のケアを振り返ることで虐待防止に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>施設見学時より詳細に説明するよう心がけている。契約に際して事前に契約書を渡し、入居時再度説明しながら、施設において可能・不可能な部分など説明するようにしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>月に一度介護相談員制度を利用し、入居者と直接会話していただくことで意見や不満を外部者へ表わせる機会をつくっている。また、スタッフも相談員の方とのより良いコミュニケーションづくりに努め、誠意をもって対応している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>日頃の様子や行事参加時の様子などを面会時に報告している。健康状態や認知症状の変化などは速やかに電話連絡を行っている。遠方で面会が少ないご家族には、生活状況を書いた手紙と写真を郵送している。預かり金は専用ノートに記載しご家族に目を通して頂いている。職員の異動は掲示板で報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に苦情相談箱を設けるとともに、外部の苦情相談窓口の連絡先を掲示している。また、入居時の契約書に苦情相談窓口として職員名を明記している。ご家族の面会時には積極的に声かけし気兼ねなく相談できるよう努めている。意見等あった時は情報を共有し改善に努めている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月スタッフ会議を行い、現在困っている問題をピックアップし職員全員で協議している。その決定事項を全員で対応していく方針をとっている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>調理専門のスタッフが別途配置され、ケアスタッフがより個別援助に関われるよう配慮されている。ターミナル時など通常より手厚いケアが必要な場合は、夜間緊急の対応ができるような体制をとっている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動前に、入居者の心身の状況、ケアの方法、注意点を伝えておき、新しい職員がスムーズにケアに入ることで入居者のダメージを少なくできるよう努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用に当たっては、性別、年齢等については関係なく、本人の積極性・老人に対する思いやりなどを主体に考えている。 勤務する上でお互いが協力しあえる体制づくりを主として楽しく勤務できるよう取り組んでいる。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>近隣で実施されている人権研修に対して積極的に参加しスタッフ会議において全員に報告してもらっている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修については、各種研修案内を提示しその都度参加の促しをしている。毎月のスタッフ会議時における勉強会の取り組みや新人研修を法人内において実施している。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム部会等の参加を通じて他の事業所との職員レベルでの意見交換が行われている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>アロマセラピー、リラクセス法を導入している。カウンセリングや食事会などを実施している。</p>		
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個々の努力実績状況把握に努め、健康管理にも特に注意を払い日々お互いで協力、カバーし余力をもった勤務体制にも配慮し、各自の考えや希望等、発言しやすく努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に事前調査を行い、今の生活で困っておられることや、入居にたいしてどう思っておられるか等を伺っている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に事前調査を行い、どんなことに困っておられるのか、どうやって生活の援助をしてこられたのか、またグループホームに望まれることや本人にどんな暮らしをして欲しいと思っておられるのか等を時間をかけて伺っている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話での問い合わせでは、グループホーム以外のサービスがあることや、入居に対する迷いがある時はショートステイや体験入所を利用して、認知症状に困っているなら専門医に相談してみるなど色々な方法があることを伝えている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に必ずご家族から本人に入居の説明をもらっている。体験入所などを利用している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活しているという気持ちを忘れないようにし、また、時には悩みを聞いてもらい励ましてもらうなど、お互い支え合う関係づくりに努めている。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の役割をケアプランの中にも盛り込んでいる。面会時に情報提供を行い、以前の生活状況を伺いながらケアのヒントを得たりしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者が話されたご家族への感謝の言葉を面会時に伝えたり、ご家族が話された思いやりの言葉を入居者に繰り返し伝えるようにしている。遠方で面会が少なくても本人のちからに応じて電話や手紙を利用することでより良い関係が保てるよう支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前利用されていたデイサービスや、かかりつけの病院を引き続き利用することで、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めている。また本人の要望に応じて自宅近くに散歩に行ったり、そこで出会う近隣住民の方と会話を楽しんだりできるよう支援している。馴染みの方となかなか会えない時は、年賀状を利用している。		地元が遠く、なかなか本人の馴染みの場所に行くことができなくても、本人やご家族との話の中で、思い出の場所や馴染みの人を把握するよう努めている。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者一人ひとりの趣味や生活歴、入居者同士の相性等の把握に努めている。以前教師だった方は他の入居者のプリントを採点する、車椅子の方が洗濯物のシワのばしをし、歩ける方が干すなど、それぞれのちからを活かしながらかわり合えるよう支援している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病状悪化のため入院された方でもできる限りお見舞いに行ったり、ご家族が来院された時は現状を何うなど声かけしながら、今までのつきあいを大切にしよう努めている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から出る言葉を大切にするとともに、今までの生活状況を把握しながら本人の意向に沿った生活ができるよう努めている。認知症の進行とともに会話が困難になっても、表情や言動を注意深く観察したりセンター方式を利用したりしながら意向の把握に努めている。		
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査票の利用や、ご家族との会話の中で把握できるよう努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活の流れや気分の変動の把握に努めている。本人がやりたいと思っていることは何なのか、どこまで出来て、どこができないのか、どう工夫すればできるのか等フロアミーティングでカンファレンスを行い把握に努めている。また、必要時には別の記録用紙を使い、気分の変動や引き金になることなどを検討している。食事摂取量、排泄、バイタルなど体調に関することは一つのシートに記入し把握しやすいようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に一回のフロアミーティングや随時の担当者会議で、課題とケアについて話し合っている。ご家族にも積極的に情報を提供し、意見やアイデアを伺いプランに取り入れている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的および変化に応じてアセスメントをし直しプランを立案している。著変時にはミニカンファレンスを行い暫定のプランを実施している。ご家族や医療機関とも情報を共有しアドバイスをいただいている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言動や、その背景と考えられるものを記入しケアに活かしている。また、どうい声かけや介助の方法が良かったのかなどできるかぎり記入することで情報の共有とケアの工夫に努めている。必要に応じ、別シートを使うことで気分の変動や睡眠状態が一目で把握できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスに通われていた方が、在宅生活が困難になった時は、グループホームに入居しながらも、デイに遊びに行き顔見知りの職員や利用者と接することができるよう支援している。また、デイの様々なアクティビティ活動を利用し参加することで、グループホーム入居者の新たな趣味の発掘や人間関係づくりに役立てるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地元の理髪店に来館してもらっている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望で地域の介護タクシーを利用したりしている。地域の他のケアマネジャーと定期的会ったり、それぞれの事業所の取り組みを報告する機会を持っているため、必要に応じて支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターのケアマネジャーに、サービス運営推進会議の委員として参加してもらっている。困難事例での取り組みやケアのあり方など、随時会議の中で報告しアドバイスをいただいている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を伺い、本人、ご家族の希望に沿って受診できるようにしている。受診時に、グループホームでの心身の状況を報告するなど、施設間での信頼関係づくりに努め、より適切な医療を受けられるよう支援している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じ、専門医受診を行っている。受診時は職員が同行し、認知症状や、心身の状況を報告することで診断や治療に役立ててもらっている。また、継続的な受診と状況報告により、ささいな変化が専門医にも伝わりやすく、職員も相談しやすい関係づくりができています。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	母体医院より定期的に看護職員が来館し、直接本人と話したり、バイタルシートに目を通したりして体調を把握している。看護職員の来館時はちょっとした変化や体調不良などささいなことでも相談し必要に応じて受診や様子観察などアドバイスをもらうことで、健康管理に努めている。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は病状だけでなく、認知症状や本人が混乱なく過ごせるためのケアの工夫や生活上の注意点を書いたサマリーを添付している。入院時はできるだけ付き添い、口頭で再度申し送りをし、不明な点は遠慮なく問い合わせてもらおうよう申し添えている。入院後はできるだけ面会し状態の把握に努めている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	時期を見てご家族に希望を伺い、かかりつけ医と共に方針を決定し、職員に報告している。書面での説明も行っている。終末期の在り方を悩まれることも多く、意向が変わることもあるため、その都度話し合いの時間をもち、ご家族から出た言葉や気持ちを含め結果をケース記録に記載し情報を共有している。		終末期の在り方について本人から意向を伺うのが難しい。試験的に『自分史ノート』を作り、その中で自分の終末期はどうありたいかを記入していただくよう試みている。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人、ご家族の不安や望まれることをその都度時間をとって伺っている。ご家族が望まれること、グループホームでできることなどを話し合い、かかりつけ医と共に同じ思いと方針をもって支援できるよう努めている。また本人の意思表示が困難になっても、ちょっとした仕草や表情の変化を注意深く観察し、快・不快の把握に努めたり、元気だった頃の習慣や好みを利用したりして終末期をよりよく暮らせるよう支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前調査で、在宅での生活の様子や工夫していることなどを伺い、入居前に職員間で情報を共有、検討してケアを行うことで混乱を少なくできるよう努めている。また馴染みの食器や家具など思い入れのあるものやご家族の写真を居室に飾ることで、安心できる空間づくりに努めている。できる範囲で居室入口からベッドの場所など、家具や動線の配置を在宅と同じにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の声かけや失敗の後始末は、個々に応じて本人を傷つけないよう配慮している。入浴は個浴で、下着やオムツ類は見えにくいようタオルで覆って持ち運んでいる。『本人にとっての現実』を大切に、安易な否定をしないことで、誇りを損なわないよう努めている。カルテは所定の位置に置いている。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員が一方的に決めてしまうのではなく、本人に通じる言葉を探して意向を伺ってみたり、分かりやすい選択肢を提示したりして自己決定の支援につなげている。言葉で表せなくても日々の暮らしの中での些細な言動から残されたたちからを見極め、職員が待つ姿勢をとることで、入居者が自分で決める機会を奪わないよう努めている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、入浴、食事、就寝、どの場所で誰と過ごしたいかなどできるだけ本人の意向に沿って支援している。職員が一方的に時間を区切って介助するのではなく、本人のやろうとする意欲やちから、ペースを大事にしている。居室で一人、ゆっくり食事することを希望される方は居室に配膳するなど安全の範囲でできるだけ希望に添えるよう努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の望む美容院に行けるようにしている。好みの色や服装を把握し、お気に入りの格好ができるよう衣服をそろえてもらっている。入居前によく着られていた服を教えていただいたり、アルバムで若いころの服装を把握したりして、その人らしい身だしなみができるよう努めている。また行事や外出の際には本人の希望に応じお化粧品なども行っている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の後片付けや、テーブル拭きなどそれぞれのできる力に応じて行っている。誕生日では好みのメニューを取り入れている。職員がせかしたり、過剰な手出しや声かけをしたりせず本人のペースで食事できるよう配慮している。食事動作の中断があっても安易に介助せず動作を思い出すきっかけづくりをしたり、座席の工夫で、食べこぼし等があっても本人の自尊心が傷つけられないよう配慮している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	愛煙家のために喫煙所を一か所設け希望に応じて喫煙できるようにしている。食事制限のある方でも主治医と相談し嗜好品を取り入れている。梅干しなどは職員がお預かりし毎日決まった分だけ提供している。ご家族や面会の方からの差し入れは適宜提供し、時には他の入居者の方と共にいただきながら、楽しみを共有している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄チェック表をもとに排泄パターンを把握しトイレの誘導に役立てている。言葉では尿意等を訴えられない方でも、その人なりの排泄のサインを見つけてトイレ誘導することで失敗を減らせるよう努めている。また、なぜ失禁したのかの原因を把握し工夫するようにしている。オムツが必要になっても安易に同じものを使用せず、パットの大きさや、パンツのタイプなど本人に合わせて使い分けをしている		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の入りたいタイミングに合わせている。ゆったりと湯船に浸かっていただき、あがる時も時間で区切らず本人のタイミングであがってもらっている。自分で洗身や着脱をしようという意欲を大事にしている。また職員と一対一になれる場でもあるため他者の前では言いにくい事を話されたり昔の思い出話をされたりリラックスしながら気持ちを表す場にもなっている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々に応じて午睡の時間をつくり、身体を伸ばしたりくつろいだりできるように配慮している。「眠い」の意思表示ができない方は様子を見て臥床介助している。一律に就寝時間を決めず、夕食後フロアでテレビを楽しむ、お茶を飲む等気ままに過ごされている。人がいる方が落ち着く方は職員が常時いるフロアのベッドに休んでいただいている。必要時、別シートで睡眠状態が一目で把握できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫が得意な方にはホーム内で使う雑巾縫い、以前教師だった方には朝の会での挨拶やメニュー読み、書道が得意な方には行事で使うメダルの名前書きなど、それぞれの生活歴や趣味に応じた役割が持てるよう努めている。洗濯物のしわ伸ばしは、自分の服だと着てしまう方には他者の服を、たむのが困難な方にはタオル等扱いやすいものをお渡しする等、残された力に応じた支援に努めている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力に応じてお金を持つことができる。嗜好品なども定期的に持つことができるようにしている。病院代の支払いも直接受け取りに来てもらうなど、本人が自分でお金を持ち管理できるよう支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	帰宅願望がある方など、本人の希望により、本人望む場所に気の向くままに散歩していただけるよう支援している。日頃、本人からの外出の希望があまりない方も、花見や地元の祭りへの参加など事業所外での行事に参加できる機会をもうけている。またご家族から入居者と共に外出、外泊を希望された時は、生活上の注意点など積極的に情報を伝え、安心して外出できるよう支援している。		要介護度も年々重度となり、外出が日常的にできているとは言えないが、馴染みの場所や思い出の地、行ってみたい場所など、会話の中で把握するよう努めている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族の協力により、時には一緒に出かけたり外泊されたりしている。その際は生活上の注意点など説明している。		
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族から入居者の方へ贈り物などがあった時に、直接電話をしてお礼の言葉を伝えてもらうなど支援している。また本人の力に応じて手紙や絵葉書を書いてご家族や馴染みの方に送ったりしている。年賀状はできる方は毎年出せるよう支援している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも面会が可能なことを伝え、来館時にはこちらから挨拶するよう心がけている。フロア、居室、談話室などどこでも自由にくつろいで過ごして頂けるよう配慮し、帰られる時は職員が感謝の言葉を伝えている。職員は入居者の方ばかりでなく、面会に来られる方々とも良い関係が保てるよう努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議でどういうベッド柵の使用が拘束になるのかなど、具体的に学んでいる。入居者の言葉の真意や、行動の背景となるものを日々検討したり、行動を早めに察知する工夫(センサーの使用)をすることで、拘束をしないケアにつながるよう努めている。やむを得ず必要な時は、理由や方法などを記入しご家族に同意を得ている。同意を得た後も、継続が必要か随時見直しを行っている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は午前8時から午後6時まで鍵をかけないようにしている。その間はセンサーによる、チャイムを使用している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者のそれぞれの行動パターンを把握するよう努め、常に、どこで何をされているのか確認するようにしている。夜間は一時間に一回は各部屋を巡回し、異常がないか確認している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	持参されている物品については可能な限り残す工夫をしている。注意の必要な物品は目につかない、届かないように工夫している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防災のマニュアルがあり、半年に一回は避難訓練を行っている。喫煙される方がおられるためガスコンロはロックし、タバコ、ライターは本人にわからないようスタッフが管理している。薬は複数の職員が確認している。個々の嚥下状態に応じ調理方法を変え、食札を利用することで誤配がないようにしている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入居者の急変時に備え応急処置、初期対応の訓練を行っている。マニュアルを作成している。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜を問わず入居者が避難できるよう、夜間想定も含めた避難訓練を行っている。避難時は近隣施設とも連携がとれるよう働きかけている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	考えられるリスクは、入居時及び経過を見てご家族にも説明し、対応策について意見を伺っている。鈴やセンサーを利用し、入居者の動きをできるだけ早く察知できるよう努めている。また行動パターンや行動の背景にあるものの把握に努め、動線に沿って家具を配置するなど環境面での工夫も行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個々のバイタルチェック表で体調管理し、異常時は連携病院と情報を共有し早期対応に努めている。自ら体調不良を訴えられない方も多いため、顔色や行動の変化にも注意し経過観察している。また母体病院より定期的に医師、看護師が来館し体調管理を行っている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のカルテに薬の説明書きを入れ目的や副作用が把握できるようにしている。変更時は連絡ノートに記載している。緩下剤はバイタル表に記載し、服薬とそれに伴う排泄の変化が把握しやすいようにしている。また母体病院の看護師がバイタル表に目を通し、服薬後の症状変化を医師に伝えている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	バイタル表で排便のパターンを把握している。排便しやすい時間にトイレ誘導をしたり、腹部マッサージや水分摂取で便秘予防に努めている。整腸作用や食物繊維の多い食品、寒天やさつま芋、ヨーグルトなどを積極的に食事やおやつに取り入れている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者の状態やできる力に応じ、洗面台や洗面器を使って毎食後口腔ケアを行っている。職員が確認を行っている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士や調理師によりバランスのとれた献立がたてられている。一人ひとりの好みや嚥下しやすい調理法を検討し提供している。水分はこまめに提供しお茶や嗜好品を取り入れながら一日の水分量が確保できるよう支援している。ターミナルで経口摂取が困難な方でも、時間にとらわれず覚醒状態や体調など本人のタイミングに合わせて、できる限り提供している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し実施している。年間を通してうがい、手洗いを励行し消毒用アルコールを各所に置いている。毎日の拭き掃除には、次亜塩素酸ナトリウムを使用し、手すりを含め掃除している。室温、湿度にも気を配っている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は実際に現物を見て、新鮮で安全なものを購入している。調理前は、器具、まな板などの熱湯消毒を行い、食器はそのつど乾燥機を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には季節の花を飾り、建物周囲の清掃に努め、明るく親しみやすい雰囲気づくりに努めている。外庭を囲むフェンスからは、ウッドデッキや一階フロアに面した大きな窓を通して入居者や職員の姿が見えるなど、開放的なつくりになっている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や絵、折り紙など季節の風物詩を取り入れて飾っている。また、入居者の方の作品や似顔絵など見慣れたものを飾っている。白内障の方のため、カーテンや椅子の位置を考慮している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの落ち着ける場所や気の合う方を把握し、椅子の位置を工夫している。また他者の視線が気になる方も配慮している。フロアのベッドも利用している。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅から持ってきた椅子やテーブル、使い慣れたテレビ、思い出の写真や昔作った自慢のレース編み、ご家族の写真などを置き居心地よく過ごせるようにしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室、トイレの換気扇を24時間使用している。フロア内の温室度計を見ながら、加湿器を使って乾燥しないようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、二か所のトイレは、ADLや左右の麻痺の状態に応じて使い分けている。居室と浴室などの入口ドアが似ているため、分かりやすく書いて貼り出している。浴室はできるだけ本人の力で安全に移動できるよう手すりを増設している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや浴室、居室にはそれぞれの分かるちからに応じて目印を付けている。個人の持ち物には分かりやすく名前をつけ、本人が把握しやすいようにしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	館内には庭があり、入居者が花を植えたりしている。運動会や夏祭りを庭で行ったりウッドデッキで日向ぼっこをしたりしてたのしんでいる。建物から少し行くと散歩コースがあり、天気のいい日には利用している。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
. サービスの成果に関する項目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない